

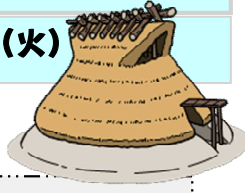


# 富士宮市立内房小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年12月5日(火)



「3つの体験、それぞれ楽しみながらも、先人の苦労を理解することができました。特に、遠方でしか手に入らない黒曜石の試し切りができたことは、貴重な体験になりました。」

富士宮市立内房小学校の6年生11人が、11月28日の体験授業に続き、古代の生活を体験しようをテーマに、体験的な活動を通して、子どもたちの歴史や文化財に対する興味・関心を高める目的で、石器の試し切り、火起こし、弓矢の3つの体験を行いました。

## 石器の試し切り体験



黒曜石が狩猟や加工に用いられていたことや、黒曜石の産地等を学んだ後、黒曜石で野菜を切ってみました。みんな、切れ味にビックリ！

「大きな黒曜石を割ると鋭く、表面もツルツルだった。」

黒曜石が狩猟や加工に用いられていたことや、

「想像以上によく切れた。」「石包丁よりよく切れてびっくりした。」

「じゃがいもの皮もむけたので細かい作業ができることが分かった。」



## 火起こし体験



もみきり式や弓切り式、舞いきり式等の火起こし方法を知っていたので、舞いきり式の説明をしながら一緒に弾み車を回しました。登呂博物館の見学では、代表者3人しか火起こしを経験することができなかったのですが、今回全員が経験し、火を起すことができ、子どもたちは大満足でした。校長先生も弾み車を回し、火起こしの大変さを実感していました。

「今はボタン一つで火がつくけど、根気強くやらないと火がつかないことを考えると、昔の人の苦労が分かった。」



## 弓矢体験



狩猟のために、大切な道具だったことを学び、使い方を聞いた後、擬似獲物に向かって矢を放ちました。

「意外と難しかった。」「遠くの獲物を射るには、コツが必要。」



「昔の人は、目も良くないとだめだと分かった。」

何本か射るとコツを掴み、当てることができました。

「止まっている物にさえ当てるのが難しいのに、動いている物に当てることができる昔の人はすごい。」

## 先生方の感想

「縄文・弥生時代の生活が想起できるような体験を通して、先人の知恵を知るとともに、物を大事に使っていたこと、火起こしの大変さなどを学ぶことができました。3つの体験、それぞれ楽しみながらも、先人の苦労を理解することができました。特に、遠方でしか手に入らない黒曜石の試し切りができたことは、貴重な体験になりました。センターの職員さんは、6年生に分かる言葉で説明くださったので、活動内容が理解できました。火起こしで困っている子どもたちをそっと手伝ってくださり、有難かったです。来年度の6年生の担任に、出前授業で実体験できる良さをしっかり伝えます。」

